様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月　 ８ 日現在

機関番号：１６３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2016
課題番号：２６３８１２１５

研究課題名（和文）感性の涵養とコミュニケーション能力育成のための実践的・国際的俳句指導の研究

研究課題名（英文）An International Study on Teaching Haiku for Nurturing Sensitivities and Communication Skills among Children

研究代表者
中西　淳（Nakanishi, Makoto）

愛媛大学・教育学部・教授

研究者番号：１０２６３８８１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、俳句を用いた国際交流の授業を実際に行うことによって、その有用性を検討するところにある。その授業は、日本とカナダのそれぞれの小学校の教室において、次の三つの活動をもって行われた。１．俳句の創作 ２．俳句の鑑賞 ３．俳句の読みの比較。授業における発言や記述を分析した結果、双方の学習者に、俳句に関する豊かな学びとともに、異国の生活や文化に関する新たな発見が生じていることが確認された。また、授業後の感想では、双方の学習者のほぼ全員から楽しかったという反応が示された。これによって、ここで試みた俳句を用いた国際交流の指導法は有用であることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to investigate the effectiveness of haiku teaching methods the author created and the usefulness of haiku for international exchange between Japanese and Canadian elementary schools. The methods follow three steps, and the classes were conducted following each step in each country separately. The three steps are as follows. (1) Making Haiku (2) Sharing Haiku (3) Comparing the results of haiku sharing circles
What was said and written during the classes in each country were analyzed by the author, and it showed that children not only deepened their understanding of haiku, they also discovered something new about each other's different lifestyles and culture. In addition, almost all of the participants in both countries mentioned that they enjoyed the entire process. The classes using this haiku teaching methods were effective at creating deeper and more meaningful international exchange.

研究分野：国語教育学

キーワード：俳句教育　国際交流　コミュニケーション

１．研究開始当初の背景

俳句は、世界の多くの地域で親しまれていることは広く知られているところである。2014 年初頭には、ベルギーのブリュッセルにおいて、日欧国際俳句シンポジウムが開かれ、各国の俳句事情が紹介されるとともに、欧州におけるこれからの俳句の在り方について協議が行われた。このシンポジウムは、欧州において俳句の普及が着実に進んでいることを示すものであった。一方、北米における俳句の普及の様相については、既に多くの著書によって報告されている通りである。俳句の普及は、世界規模で今後ますます進んでいくものと予想される。我が国における俳句教育の在り方も、俳句による国際交流を視野に入れた探究がなされるべき時代に入っているといえるだろう。

ところで、その視点からの研究は十分に行われているとはいいがたい。その背景には、俳句の定義や翻訳の在り方、学校制度、教師の俳句観や俳句教育観等に関する問題が数多く存在するからである。

そうした中で、申請者は、北米における俳句受容や俳句教育の現状を慎重に検討しながら、俳句の魅力を感じ取らせるための「取り合わせ」と「句会形式」を取り入れた俳句の授業を、北米の学習者に対して行った（中西、2009）。授業分析の結果、それらの手法の有用性が認められた。また、それら手法は、以前我が国で効果が認められたもの（中西、2005）とほぼ同様であった。そのことから、諸問題を克服すれば俳句の文芸性に依拠した国際交流が可能であることを指摘した。

さらに、申請者は、国際交流を実りあるものとするためには教師の俳句教育観が重要であると考え、俳句の魅力やその教材価値を考えていくためのハイクワークショップを北米の教師を対象として試みた（中西、2013）。その結果、そこで行ったハイクワークショップは、北米の教師の俳句教育観の形成に大きな意味を持つことが、教師の内省等を通して明らかになった。

国際交流を視野に入れた研究はこのように着実に進んではいるものの、学習者同士の俳句による交流を試みた実践研究にはいたっていない。

それを実現し、俳句による国際交流の在り方を探究することが、この分野における研究開始当初の課題である。

（文献）

中西淳（2005）「俳句の指導法の開発―コミュニケーション媒体の視点から―」全国大学国語教育学会編『国語科教育』58 集 pp.82-89

中西淳（2009）「北米におけるハイク指導の実践的研究」全国大学国語教育学会編『国語科教育』66 集 pp.59-66

中西淳（2013）「北米におけるハイクの教材性の検討－国際交流を視野に入れて－」全国大学国語教育学会編『第 125 回広島大会研究発表要旨集　国語科教育研究』pp.175-178

２．研究の目的

本研究は、以上のことを背景に、俳句を用いた国際交流の授業を実際に行うことによって、その指導法の有効性を検討するところに目的がある。

３．研究の方法

（１）これまでの研究の整理・検討

これまで取り組んできた研究（『感性の涵養とコミュニケーション能力育成のための俳句指導法の開発』（平成 22 年度~平成 24 年度・基盤研究（C））の集約を行い、研究を進める上での課題や方法を確認する。

さらに、2013 年の後半に行った俳句ワークショップの研究の成果を論文にまとめ発表する。

（２）実験授業の構想・実施・考察

実験授業研究を以下の手順で展開する。

① 我が国とカナダとで俳句を用いた国際交流の授業を構想する。

② 国際交流の授業を実施する双方の小学校に出向き、具体的な日程調整を行う。

③ 我が国とカナダの小学校で授業を実施する。

④ 授業の有効性を分析・考察する。

（３）研究成果の海外に対する情報発信

研究成果を、我が国のみならず、北米のの学会においても発表する。

（４）俳句教材の可能性の探究

研究成果をもとに、日本語教育分野における俳句教材の可能性を探究する。

４．研究成果

（１）教師に対するハイクワークショップの重要性

2013 年に北米の教師を対象に行ったハイクワークショップの分析・考察を行い、その有用性を論文にまとめ発表した（「北米におけるハイクワークショップの有用性―国際交流を実りあるものとするために―」全国大学国語教育学会編『国語科教育』76 集 pp.55-62、査読有、2014 年 10 月）。俳句を用いた国際交流を実りあるものとするためには、教師自身の豊かな創作・鑑賞体験

を保障するワークショップが必要であるとともに、そこで生じた疑問や問題を深く共有する場や、ハイクの教材価値を議論する場も必要であることが明らかになった。

（２）俳句を用いた国際交流の効果的な指導法の開発

俳句による国際交流の授業（合同句会）を我が国の小学校とカナダの小学校で実施し、その指導法の有効性を検証した。授業は、日本とカナダの双方で、創作の授業→鑑賞の授業→「読みの比較」の授業という三層の授業を展開した。創作の授業では、英語俳句を「十七以内のシラブル数を目安とした季語を含む三行詩」として取り扱い、「取り合わせ」の技法を教授した。鑑賞の授業では、我が国の学習者の俳句とカナダのそれとを取り混ぜ、匿名のもと双方がそれを読み味わっていく句会を催した。「読みの比較」の授業では、双方の鑑賞のあり方を比べさせた。授業の分析の結果、俳句に関わる学びとともに、異文化理解の促進につながる学びも生じていること、学習者の俳句に対する興味・関心が高まっていること等が確認された。俳句による国際交流のあり方として有用な実践方法を具体的に提示することができたことと、俳句（句会）は学習者同士をつなぐ魅力的な教材となり得ることが確認できたこととの二点が大きな研究成果といえる。なお、この成果は、全国大学国語教育学会において発表し論文にまとめた（「俳句による国際交流の実践的研究」全国大学国語教育学会編『国語科教育』第 80 集、pp.71-78、査読有、2016 年 10 月）。

（３）国際学会における情報発信

上記（２）の研究成果をもとに、学校教育における句会の教育的意義をまとめ、それをハイクノースアメリカの国際大会において（題目：The Significance of Kukai in Elementary School）発表した。句会は、言語教育のみならず、コミュニティ形成、感性教育、環境教育にもつながることを指摘した。

（４）日本語教育における俳句教材の可能性

上記（２）の研究成果をもとに、日本語教育教材として俳句がどのような価値を持つのかその可能性を探り、その結果を日本語教育学会のパネルディスカッションにおいて発表した（日本語教育学会秋季全国大会 2016 年９月、テーマ「人をつくり文化をつなぐ俳句の魅力」）。

５．主な発表論文など

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計５件）

①中西淳，俳句による国際交流の実践的研究，全国大学国語教育学会編『国語科教育』80 集，pp.71-83，2016 年，査読有.

②住田勝　寺田守　田中智生　砂川誠司　中西淳他，社会文化的相互作用を通して構成される文学の学び，全国大学国語教育学会編『国語科教育』79 集, pp31-46, 2016 年，査読有.

③中西淳，俳句による国際交流の実践的研究，全国大学国語教育学会編『第 129 回西東京大会研究発表要旨集　国語科教育研究』，2015 年，pp.197-200，査読無.

④住田勝　寺田守　砂川誠司　田中智生　中西淳他，文学の学びにおける習慣的知識の検討, 全国大学国語教育学会編『第 129 回西東京大会研究発表要旨集　国語科教育研究』，2015 年，pp.73-76，査読無.

⑤中西淳，北米におけるハイクワークショップの有用性―国際交流を実りあるものとするために―，全国大学国語教育学会編『国語科教育』76 集，2014 年，pp.55-62，査読有.

〔学会発表〕（計４件）

＜国内＞

①中西淳(シンポジスト)，俳句の魅力とその可能性―句会を中心として，日本語教育学会秋季（愛媛）大会，2016 年 10 月８日.

②中西淳，俳句による国際交流の実践的研究，第 129 回西東京大会，2015 年 10 月 24 日.

③住田勝　寺田守　砂川誠司　田中智生　中西淳他，文学の学びにおける習慣的知識の検討, 第 129 回西東京大会, 2015 年 10 月 24 日.

＜海外＞

④ Makoto Nakanishi, The Educational Significance of *Kukai* in Elementary Schools, Haiku North America Conference 2015, Albany，2015 年 10 月 16 日.

〔図書〕（計２件）

①高木まさき他編著『国語科重要用語辞典』，明治図書，2015 年，279 頁（分担執筆、中西淳「短歌・俳句」「書くことの指導の方法」「文種」）.

②山元隆春編著『教師教育講座　中等国語教育』，協同出版，2014 年，422 頁（分担執筆、中西淳「書くことの理論と方法」）.

〔産業財産権〕

○出願状況（計　０件）
○取得状況（計　０件）

６．研究組織
(1)　研究代表者
中西　淳　（NAKANISHI　Makoto）
愛媛大学・教育学部・教授
研究者番号：10263881

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし